

茨城県境町猿山・蛇池地区開発

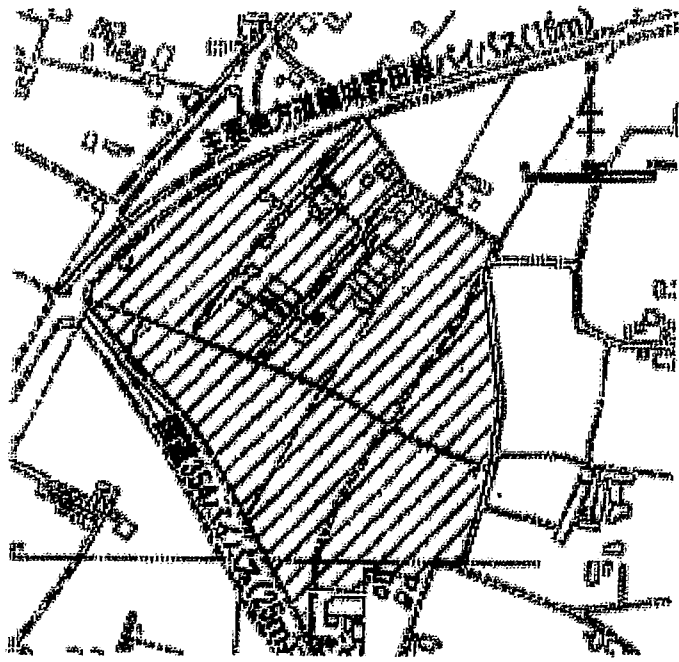
地権者協

協力企業に大洋(株)

計画はフクダ・アンド・パートナーズ

茨城県境町の地権者らで構成する猿山・蛇池地区開発専業地権者協議会(関根会長)は、同地区の開発事業推進のための協力企業を大洋(水戸市)とフクダ・アンド・パー

トナース(東京都中央区)に決めた。地権者らは基本的に土地を売却し、大洋が開発行為の手法で造成し、2021年中の流通業務施設立地を目指す。フクダ・アンド・パー



猿山・蛇池地区

トナースは開発・建物の計画を担当する。

猿山・蛇池地区(境町大字猿山、蛇池、長井河の一部)は広さ約10・6ha。首都圏中央連絡自動車道(圏央道)境古河ICに近く、西側は

国道354号バイパス、北側は国道17号結城野田線に面する。市街化調整区域にあるため、開発行為の前に地区計画の都市計画決定が必要となる。

大洋とフクダ・アンド・パートナーズはこれまで協議会に対して地区の開発計画を提案していた。協議会は地権者の同意を得て18年度から測量などの調査を進めていた。今後は地権者との具体的な協議を進める。

同IC北側の約24・6haでは、境古河IC周辺地区土地区画整理組合(境町、平川栄理事長)が計画する土地区画整理事業の起工式がことし5月に開かれている。

業務代行者の大和ハウス工業が造成し、保留地も取得する。21年度の事業完了を目指している。